



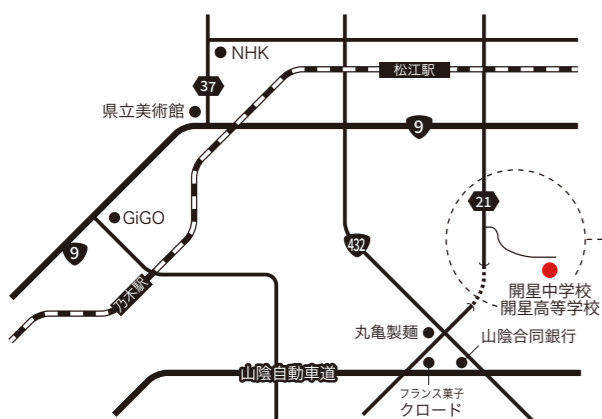
〒690-0017 島根県松江市西津田9-11-1
TEL 0852-21-4915(代)

公式ホームページ
開星 検索
<https://shimane-kaisei.ed.jp/>

開星中学校・高等学校
100周年記念特設WEBサイト
開星 100周年 検索
<https://100th.kaisei-project.jp/>



JR松江駅より徒歩 20分 山陰道松江中央ランプより車 5分



その先の
二〇〇年を
目指して。



「Next200」とは、
次の100年を生徒と共に創造しようという
私たちの挑戦の証。
さあ、一緒に希望の光となり、
未来を開く星になろう。

© KAISEI Junior & Senior High School All Rights Reserved.

学校法人大多和学園 開星中学校・高等学校 創立100周年記念誌

2026年3月29日発行

発行：学校法人大多和学園
開星中学校・高等学校

編集：創立100周年記念事業実行委員会
デザイン：株式会社吉田写真堂



学校法人 大多和学園
開星中学校・高等学校
創立100周年記念誌



The Ottawa Institute of Education since 1924

学び紡いだ一〇〇年が、
未来へつながる。



The Ottawa Institute of Education since 1924

Contents

| | |
|----|---------------------|
| 02 | もくじ |
| 04 | 理事長ごあいさつ |
| 06 | 校長ごあいさつ |
| 08 | 校歌 |
| 10 | 校舎点描 |
| 12 | 100人の感謝状 |
| 13 | 100人の感謝100選 |
| 14 | 感謝100選メッセージ |
| 18 | 大多和学園創立100周年記念募金 名簿 |
| 20 | 制服の変遷 |
| 21 | 校章の変遷 |
| 22 | 大多和学園100年のあゆみ |
| 32 | 「ともしび」 |
| 36 | 記念式典 |
| 41 | 祝賀会 |
| 44 | 100周年記念事業 |
| 46 | あとがき |





記念式典 式辞 (令和6年10月10日)

「世界中の青空を全部東京に持ってきてしまったような、素晴らしい秋日和でございます。」これは、今からちょうど60年前の今日、10月10日、東京で初めてのオリンピックの開会式、テレビ中継でのアナウンサーの第一声です。当時、この日は過去の統計から「晴れの確率が高い日」でしたので、選ばれました。その日は、実際に前日の雨模様とは打って変わる晴天となりました。それから60年経った本日、ここ松江も有り難いことに秋晴れとなりました。

そうしたよき日、ここに本学園創立100周年記念式典を挙げるにあたり、多数のご来賓の方々にご臨席を賜り、本学園の職員、生徒と共に祝うことができますことは、誠に喜びに耐えないところでございます。高い所からではありますが、厚く御礼申し上げます。また、本学園の日頃の取り組みに対しまして、同窓会、教育後援会、保護者の会をはじめとする関係各位の皆様のご理解ご協力のおかげで、今日を迎えることができました。改めて深く感謝申し上げます。

本学園は、大正13年、1924年に大多和音吉・タカ夫

妻によって創立され、その後、大正、昭和、平成、令和と時代の変遷の中で、「建学の精神」を根本に置き、常に「不易」と「流行」、すなわち「変えるべきでないこと」と「変えるべきこと」を意識した学校教育に尽力しております。

創立者・大多和音吉は、若き時代に一介の海軍兵としてアメリカに遠洋航海し、日本でも洋装の時代が来ると予感しました。退役し、ミシン会社に就職し、最初広島で勤務した後、ここ松江の地に赴任しました。ミシンを販売するには、その使い方も指導しなければ買い手がつきません。音吉の妻・タカはミシンの技術指導を行い、夫婦二人三脚で営業に尽力しました。大正初期、日本全体でも、まだ洋装が普及していない時代に、地方都市において、ミシンの販売は困難の連続でした。

そもそも、音吉が海軍に入隊し、アメリカに行ったのは、若くして未亡人になり女手一つで農業をしながら五人の子どもを育ててくれていた母への思いがありました。母のような女性が自立できる時代になるために自分に何ができるかを考えている時、近所の人から、「貧し

くても海軍に入れば、海外に行く機会が得られる。そこで見聞を広め、次の時代を予見しろ」と助言されたことに起因します。

女性が自立できる社会が到来するために働いていた音吉は、ミシンの技術普及は、ミシンの販売だけでは限界があり、会社の販売目標を達成するのも難しい状況であったので、退社し、妻と学校を開校します。それが本学園の前身「松江ミシン裁縫女学院」です。

開校したものの、ミシンや洋裁の需要はなかなか増えません。ただし、女子教育の需要は、少しずつ増えてきました。いわゆる「良妻賢母」、よい妻・賢い母親を育成するための人間教育です。そこに価値を見出した音吉は、その柱を探しました。キリスト教、仏教、神道など宗教に触れながら、たどり着いたのが「モラロジー」です。「モラロジー」とは、「道德」を表す「モラル」と、「学」を表す「ロジー」からなる学術語で、法学博士・廣池千九郎が大正15年、1926年に創建した総合人間学です。倫理道德の研究を推進し、人間としてのよりよい生き方と住みよい社会の実現をめざし、明るい未来を拓こうとするモラロジーの目的に共感した音吉は、道德教育の推進を始めました。

こうして本学園は、二つの教育の柱が確立しました。一本は、次の時代を見据え、先んじて行う教育、これを「先見・先行教育」と呼んでいます。そして、もう一本が、人間としてよりよい生き方をめざすモラロジーによる道德教育です。「品性の向上をはかり、社会の発展に役立つ有望な人材を育成する」という本学園の「建学の精神」は、今申し上げた二つの柱から成り立っています。

今から約40年前に出版された外山滋比古著『思考の整理学』という本があります。ロングベストセラーですので、生徒の皆さん、あるいはご参集の皆様の中に、読まれた方もいらっしゃるかもしれません。その中に「明治時代から日本人が勉強と称して努力してきたものは、多くが外国を真似るだけの受け身の勉強だった」とあります。こうした勉強は、今もほとんど変わらないと思います。外国から学ぶことも大切ですが、わが国の歴史文化から学ぶことも必要です。江戸時代の初期、水戸光圀は「絶えざるを継ぎ、廃れるを興す」という言葉を遺しています。わが国の歴史や文化を振り返った時、「絶えた

ものなら、そのあとを継げばよいし、廃れたものなら、それを再び興せばよい」ということです。まさに明治維新がそうでした。こうした視点や発想も大切にしたいと考えます。

哲学者・西田幾多郎は、昭和天皇へのご進講の際、次のようなことを述べています。「歴史は、いつも過去と未来を含んだ現在の意識をもったものと思います。ゆえに私は、わが国においては、建国の精神に還ることは、ただ過去に還るだけではなく、いつもさらに新たな時代に踏み出すことと存じます。」このことを言い換えれば、原点に還ることは、新しい時代に踏み出すことになると言えますでしょう。

今の時代、いやこれまでも、「改革」や「変革」という言葉が、たくさん飛び回っていますが、時代を振り返ってみると、「改革」や「変革」の成果が必ずしもよくありません。それは、原点を忘れた取り組みだったからではないでしょうか。

本学園創立90周年の際、記念講演をいただいた、私が尊敬するイエローハットの創業者・鍵山秀三郎先生は、「未来を見据える」とはどういうことか、次のように言われています。「過去に感謝できる人は、未来に対して考えることができるようになります。反対に、過去に感謝できない人は、未来を考えることができません。過去への感謝が未来を創造するからです。」

原点を忘れた未来はありません。過去を捨てた未来もありません。鍵山先生がおっしゃる「過去」は、私学にとっては「建学の精神」と考えます。創立100周年にあたり、本学園創立の原点を再確認すると共に、本学園の「建学の精神」に感謝し、本学園は今後とも私学の独自性を活かして、この地域に欠くことのできない学校として、社会の発展に貢献できる人材育成に尽力して参ります。

生徒の皆さん、本校の校名「開星」は、この「建学の精神」に由来していることを常に意識して生活してください。最後になりましたが、ご来賓の皆様、今後ともご支援ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。私の式辞を終わらせていただきます。

理事長 **大多和 聡宏**



記念式典メッセージ (令和6年10月10日)

この100年の歴史は、学校法人 大多和学園にとって大切であることはいうまでもありません。そしてそれ以上に、これから先も100年続く学校になるために何を為すべきかを考え、実行していくことがより重要なことと思っております。

現代の社会は変化の激しい時代にあります。しかし、どのような時代が来ようとその中で自立し社会で活躍し、社会に貢献できる力を持った人を育成するのが開星の指名です。そのためには時代の要請に応え、常に教育内容を推進していく普段の教育改革が必要です。

開星教育の原点をしっかりと踏まえ、この創立100周年を機に次の100年を見据え、これからの社会の変化の中で開星教育が目指す姿を示す「Next200ビジョン」(教育目標)を定めました。

「未来をひらく、星になる！」

未来をひらくの「ひらく」という言葉に、2つの

意味を込めた。

1つ目は、「開星生一人一人が心をひらき、互いに尊重し合う」という意味だ。



開星生は、昨年度創立99年までの取り組みにより徐々に自分の個性や考えを集団の中で発揮できるようになってきている。そこで、今年度からはさらに、6年間の一貫同士がつながり、活動していくことで、新しい自分に気付いたり、集団の中で自分の力を発揮したりする姿を追い求めたい。

2つ目は、「みんなで新しい未来をきり拓く」という意味だ。

様々な問題や課題に出会ったとき、自分たちで、新たな解決方法を見つけ出し、新しい道をきり拓く開星生を育てていきたい。

世界は目まぐるしく変わっている。その流れに取り残されては、アップデートしない価値観のままでは、未来は暗くなってしまう。

明るい未来を作るために、自分自身が動くことがとても重要だ。考えるより、まず動こう。

星は、みんな違ってみんないい、一人一人、この世に生まれてきた意味があります。意味のない人は

いないし、どのような人生であっても無駄なことは何ひとつありません。そのかけがえのない命を、いつまでも輝き続けて、未来をひらくために、魂を輝かす力となってほしい。

絶えず変貌して前に進もう、
いいころ合いで手を打とうとする自分を置き去りに、
追いかけてくる自分に捕まらないように。
堂々と悠々と。
闇があるから光が生まれる。
たとえ太陽が海に溶けても、
空にはやがて星が輝く。
マルクなるな、星になれ！*

先達の先生方の思いを引き継ぎ、生徒の皆さんと共に、今を、一步一步着実に歩いていくことです。

校長 小山内 仁

※引用：サッポロビール株式会社「サッポロ生ビール 黒ラベル」ブランド広告より

校歌

詞 藤原久松
曲 小林昭三

風ひかり

ゆたかな時間を吹きおくる

三年の日の語らふに

あま鳴りわたる天籟の鐘

みちをる生命を

つたえ今朝

光をよめる今日をまきおくる

地平へ

ひとすじに道はひらける

この丘に旅立ちの朝

あま鳴りわたる天籟の鐘

よへ風すすぶるこゝろ

あやめ凩を

あたらし明日を創造する

野々村直道

創立100周年記念 同窓会寄贈 校歌揮毫 野々村直道 令和6年(2024)3月吉日





100人の感謝状

「100年の感謝100選」とは

本学園が大正13(1924)年の創立以来、100年の歴史の中で本学園に様々な面でご貢献いただいた旧職員(現非常勤職員を含む)、卒業生、その保護者の方、また関係諸団体など多方面の分野から100名(団体を含む)を選出致しました。

対象者の皆様は、記念式典の際に発表し、代表の方に感謝状を贈呈致しました。その後、すべての皆様に個々に贈呈させていただきました。

なお、対象者は現在ご存命の個人・ご存続の団体に限らせていただきました。

理事長 大多和 聡宏



対象者の皆様

安達 亨
池内 とき丞
池田 四郎
池淵 正浩
石倉 茂美
石田 皓太
石原 朝登
伊藤 翔
伊藤 ふじ江
糸原 健斗
井上 くるみ
井上 祐一
今田 直樹
岩佐 信道
宇野 泰弘
AFS日本協会松江支部
太田 敦久
岡田 直樹
小川 武尊
小川 優
奥田 善子
鍵山 秀三郎
梶谷 隆幸
勝部 道成
勝部 裕
加藤 貞子
カナツ技建工業株式会社
金築 彩華
金築 市朗
上萩 洋三
狩野 治子
川上 大志
木南 一志
小林 正康

坂田 博史
佐藤 友馬
實重 和美
株式会社 山陰合同銀行
塩田 直也
島根県モラロジー協議会
しまね信用金庫
下田 尚
下山 寛典
白根 尚貴
白枝 典子
陶山 秀樹
曾田 昭志
高木 秀人
高野 顕信
田中 道德
田中 裕一郎
田辺 厚志
谷口 博則
友田 祐爾
豊田 元英
直井 一晃
長岡 一彦
中倉 眞
永瀬 正樹
永原 秀治
南波 利治
錦織 圭
野口 芳宏
野津 直嗣
野津 風馬
野々村 直通
服部 道雄
原田 和雄

原田 慎一
原田 泰人
秀浦 淑晃
平野 武志
廣池 幹堂
福島 美弥
福島 由子
福岡内科医院
藤原 稔子
株式会社 報光社
穂苅 満雄
細木 咲良
細木 恒夫
細木 秀樹
松浦 三郎
松江・出雲掃除に学ぶ会
松江東ロータリークラブ
松江モラロジー事務所
松尾 浩志
松崎 滋
松本 実
松本 康佑
三代 雄一
水野 次郎
宮瀧 譲治
持田 幸治
百瀬 威三郎
森脇 房子
山口 俊大
百合澤 功
吉岡 澄子
若林 實

(五十音順・敬称略)

感謝 100 選メッセージ

(五十音順)

伊藤ふじ江

理事長先生をはじめ、諸先生方、保護者の皆様、創立100周年おめでとうございます。
この素晴らしい校舎と設備、そして学園の「建学の精神」のもとにさらなる発展をお祈り申し上げます。

井上祐一

本校の100周年は私学・土地柄・大戦等のハンデを越えた大偉業です。他校と一線を画す道徳教育が偉業の礎です。国家の宝の子のみならず親も教育され育ちます。将来に亘り豊かで多様性の有る人間の輩出を期待します。

今田直樹

この度は誠にありがとうございます。
私は旅行会社の添乗員という立場で調理科や探究研修などのお手伝いをさせて頂きました。会社という域ではなく、個人的に、未永く、このご縁を大切にしたいと願っております。この度は誠にありがとうございます。

岩佐信道

初めの100年、特に草創期にどのようなご苦労があったか、ほとんど想像するだけでありますが、これからの100年は、皆さんで、力を合わせて、思う存分やって下さい。大いに期待しています。

岡田直樹

高校生だった三十年前は母校を誇れませんでした。そんな私が、今は母校を代表するOBの一人として、このメッセージを書いています。次の時代の「母校の誇り」を創るのは現役の皆さんです。頑張ってください！

小川たける

100年という月日はあまりに沢山のことがあります。前回は戦争もあり、繁栄と衰退もあり、技術革新もあり。これからの100年も予想できない出来事だらけだと思いますが、開星らしい歴史を作って頂きたいです。

奥田善子

雨の日も風の日も、悔しかった日も楽しかった日も通った学園坂、笑ったり泣いたり毎日の毎日、先生に背中を押してもらったこと。そんな思い出溢れる開星で、教員としても、たくさんの生徒と出会い過ごした日々は宝物です。これからも誇れる母校でありますように。

勝部道成

島根を面白くするのは俺たちだ！「面白いことがないかな」とただ待っていても、向こうから転がり込んでくることはない。ないなら作ればいい。面白いことをただ待ち望んでいる人はたくさんいる。待つだけの人になるか届ける人になるか。どちらが面白いと思う？

カナツ技建工業株式会社

学校法人 大多和学園様の創立100周年を心よりお祝い申し上げます。これからも地域のリーディングスクールとして校訓「立志 明朗 創造」のもと、次代を拓く先駆的な教育を実践され、創立200周年の高みをめざし躍進を続けられることを願っています。

金築彩華

この度は感謝状をありがとうございました。そして創立100周年おめでとうございます。これを励みに、これからも自分の人生の主人公としてドラマチックに生きていきたいと思えます。末筆ではございますが、益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

上萩洋三

開星中学校高等学校は島根県の誇り日本の誇り自分を大切に人を大切に。時代は変わる開星の精神は不変。日本の教育の見本校。守ろう支えよう、全国のみんなで。

木南一志

現代では忘れ去られた「品性の向上」という建学の精神。創立100年という節目からバトンを受け取って、一度きりの人生を走り抜けてください。その先に200年と日本の未来が輝いています。

小林正康

創立100周年誠にありがとうございます。
悠久の時を経て、個性的かつ魅力的な御校の伝統を守り続けてこられたことは、並々ならぬ御苦労があったことと拝察いたします。
これからも、未来を担う人材を育む学び舎でありますようにご祈念申し上げます。

實重和美

その配置を含め、市民権を得るために心血を注いだ「学校司書」という仕事を開星で終えることができたことに本当に感謝しています。質の高い授業を行うために日々努力されている先生方の仲間になれて幸せでした。私はいつまでも『開星』の応援団です。

山陰合同銀行

大多和学園創立100周年、誠にありがとうございます。貴校の輝かしい歴史に敬意を表し、未来へのさらなる飛躍を心よりお祈り申し上げます。これからも地域と共に発展されることを心より願っております。

塩田直也

木造の東朝日の校舎では風に震える図書館の窓
僕ならばエリスを捨てたりしませんと令和の生徒は迷わずに言う
初恋というお題にて歌合古文の授業いつになく沸く
緑山の丘より望む城下町100年先へと道はひらける

しまね信用金庫

創立100周年、誠にありがとうございます。
将来を担う若者たちの成長を支え、地域社会の発展に貢献して来られた歴史と伝統に深く敬意を表します。
しまね信用金庫も昨年100周年を迎えました。今後も地域社会への貢献という目標に向かって共に歩んでいきましょう。

下山寛典

私は高校3年間で、人生の礎となるものを学びました。それは、物事への取り組みは、自ら考え工夫し、本気でやり遂げることです。勉強もスポーツも、本気で取り組み、結果に関わらず必ず人生に活きます。人生で最も大事な3年間を本気で過ごしてください。

陶山秀樹

学園創立時の生徒数は、16人であった。今年度は246人の生徒が入学した。この過程には大勢の方々の苦労があったであろう。生徒募集にも建学の精神「自分に厳しく、他人にやさしく、不易と流行の区別」を意識し、The NEXT 200thに向けて、取り組んでもらいたい。

高木秀人

創立100周年おめでとうございます。このたびは感謝状を頂き、誠にありがとうございます。娘が6年間楽しい学園生活を送らせて頂いたこと大変感謝しております。開星中学校・高等学校様が益々活躍されますことをお祈り申し上げます。

高野顕信

少子高齢化・官尊民卑が残る島根、全国自治体の四割が消滅する予想の厳しい現に、山陰の雄として存在するには？文武ともに、ネット、SNSだけに頼らない、知的好奇心を高め、自立、自律していく生徒像を願う。同時に校内組織が共有して対処すること。

田中道徳

未熟者の私を選んでいただき、感謝申し上げます。恩師との出会いが、夢に繋がりました。家庭医という夢を叶えた私は、今は子どもの心を支える医師を目指して修行中。自分のやりたい思いがあるからこそ苦勞の道も通れます。皆様の未来を応援しています。

田中裕一郎

100周年おめでとうございます！母校が培った伝統と誇りを胸に、次の200年へ向けて更なる飛躍を期待しています。未来を創る後輩たちに、素晴らしい道が開かれますように。開星高校と卒業生の明るい未来に乾杯！

田辺厚志

開星中学校・高等学校の創立100周年に際しまして心からお祝い申し上げます。
100年と一言で言うにはあまりにも長い期間を少しづつ、一步一步着実に積み上げてこられた成果が今ここにあるのだと思います。次の時代に向けて踏み出す新たな一歩を応援しています。

友田祐爾

大多和学園創立100周年心よりお祝い申し上げます。私こと、90周年・100周年と二度の記念式典・祝賀会にご招待をいただき光栄な事と感謝申し上げます。Next200に向けて益々のご発展と、理事長・教職員皆様のご健勝ご活躍をお祈り致します。

豊田元英

今、昭和53年に松江第一高等学校の勤務が始まった日を思い出しています。わずか3名の男子生徒を迎え、男女共学になった記念すべき年です。それから46年、これからも心を育て有望な人材を世に送り出されることを心から祈念いたします。

直井一晃

「社会の発展に役立つ人材の育成」の為、掃除に大きな期待を寄せていただき大変嬉しく感じております。これからも微力ではございますが、松江出雲掃除に学ぶ会の活動を通し、子供たちにとってさらに素晴らしい学校になるようお役立ちできれば幸いです。

南波利治

創立100周年、誠におめでとうございます。卒業生として大変誇りに思います。今の自分があるのは、開星高等学校の教えや、下田監督の元、皆で一丸となって柔道に取り組んだことによるものだと考えております。今後もより一層発展されることを心から祈念します。

野口芳宏

建学の精神「品性の向上をはかり、社会の発展に役立つ有望な人材の育成」は、不変、不動の哲理と敬服しています。次の100年の歩みがこの原点の上に築かれるならば、大多和学園の発展、栄華は揺るぎないものとなりましょう。「飲水思源」を胸に励まれんことを。

野津直嗣

風が光る希望の高台の学校。今を輝かせ、未来へ繋ぐ。その「今」こそ未来であり、その「今」こそ、過去から幾重にも連綿と繋がってきた「今」です。二度と時間は後戻りをしません。人生の中でも最も美しく輝かしい時代の傍に開星高校は在り続けると信じています。100年後も開星高校が、今を楽しみ、将来未来を切り開く可能性を秘めた学生たちの笑顔と笑い声、歓声で溢れている光景を信じています。

野津風馬

創立100周年、誠におめでとうございます。在校生、卒業生、教職員、支えてくださった全ての方々の努力と情熱が、素晴らしい節目を築き上げたのだと思います。今後も新しい時代に向け挑戦を続けていく、開星のさらなる発展とご活躍を祈念しております。

服部道雄

兵器が勝手に戦争を始めることはない。兵器を発射させるボタンは人間の指に委ねられている。その指は機械的に動くのではなく、人間の意志によって動かされる(ダライ・ラマ)。科学技術の発達に伴い、道徳的叡智を有する人材が必須。大多和学園の出番です。

原田泰人

母校の創立100周年、おめでとうございます！この特別な瞬間を皆と祝えることが嬉しいです。在校生の皆さん、未来は無限の可能性に満ちています。自分を信じて挑戦しましょう！皆の活躍が母校の誇りになることを楽しみにしています。これからの200年も共に素晴らしい歴史を築いていきましょう！

平野武志

争わない社会、争いの原因は、環境が大きく影響しているそうです。争わない社会の実現を目指し私は学校、職場、街の掃除を続けてきました。開星中学高校は美しい学校ですが、美しい生活環境の維持がNext200に繋がると信じ協力させていただきます。

廣池幹堂

創立100周年おめでとうございます。創立者の精神を見事に具現化し、私学教育の成果を内外に示してこられた大多和理事長はじめ 皆々様の情熱に心から敬意を表しますとともに、Next200に向けてますますのご発展を心よりお祈りいたします。

福島由子

夢を叶える土台を育てる開星中学・高等学校。100年間の開星の栄光が200年後には2倍以上になると信じています。これからもずっと応援しています。

藤原稔子

創立100周年おめでとうございます。私が勤務している時に現校舎への移転があり学校は活気にあふれわくわくとした毎日でした。特に部活動での成果は目ざましく今にその伝統を守り続けている事を大変誇りに思っています。今後開星の増々の発展を期待しています。

穂莉満雄

この100年には、大小様々な問題があった事と思えますが、古人が伝えられる様に、3つの力が必要だ。(1)、自分の最大の努力、(2)、周囲の援助、(3)、神、仏のお守り、ご加護。3つが揃って物事が成る。その事を胸に感謝する。以後もこの感謝生活を忘れずにご努力を!!

細木咲良

私は歴史ある開星中学、高校で、勉強とテニスに打ち込むことができ、多くの方々に支えられ、現在プロテニス選手として日々過ごせていることに感謝しています。この先も文武両道の恵まれた環境で夢を追い求められる大多和学園でありますよう願っています。

細木恒夫

教員、法人の評議員として大多和学園に、ほぼ半世紀関わらせて頂きました。学園の「建学の精神」に基づく教育に携わらせて頂いた事が、現在地域での活動の源になっているのではと感謝しております。大多和学園の今後益々の発展を御祈念いたします。

細木秀樹

私は大多和学園に自分の個性を尊重し、それを生かしながら育てていただいた印象があります。この先200年に向け、生徒が自分の強み、長所に自信をもち、希望溢れる学校であり続けることを期待し応援していきます。

松江東ロータリークラブ

めでたく創立100周年を迎えられ、心からお祝いを申し上げます。これは職員の皆様が一致結束して努力された賜のものであり、深い敬意と尊敬の念を表する次第であります。これからは、更に200年に向けて、新たな決意のもと、益々充実発展されますよう、お祈り致します。

三代雄一

100周年おめでとうございます。私が在職させて頂いたのは昭和47年、松江家政高等学校の女子校の時代です。その年の入学生は300人余、故理事長先生がお喜びでした。またあの年の夏は豪雨で松江市街が水浸しで佃先生、竹内先生と学校に泊り込みました。

百瀬威三郎

南十字星が瞬く夜空を仰ぎ、クライストチャーチ大聖堂の厳肅さに畏敬の念を抱いた若き日の私も伴にした海外研修。その熱情を100年からの新しき第一歩を踏み出す糧として、開星の未来の道しるべに猶々灯し続けて下さい。

森脇房子

創立100周年 誠におめでとうございます。校舎玄関の初代理事長 大多和音吉先生の胸像を見ると当時を思い出します。音吉、タカ先生の説かれた最高道徳もすばらしく、感謝しております。現理事長先生ご夫妻どうか、健康第一に留意され、益々本校発展に尽力なさることを祈念しております。

山口俊大

創立100周年おめでとうございます。中高6年間で開星のDNAが染み付いていたはずの私ですが、先日ふと職場で挨拶が適当なことに気づき、開星OBとして恥ずかしさを感じました。大切な事が当たり前に見える、そんな伝統がいつまでも続くことを願います。

百合澤功

開星の樹の年輪は、100周、に育ち、年間の寒暖差厳しい自然から育った年輪です。葉は生徒、幹は指導者、根は学園。生徒の成長する葉色に成長し、腐葉土は後輩達の栄養に。本校の樹の年輪、200周、に、葉、幹、根、の一体樹が幼児から市民が集う樹になります様未来を夢みます。

吉岡澄子

創立100周年の感謝状賜り光栄です。これもひとえに先代大多和タカ・厳・幸子先生の薫陶と諸先生方のご支援のお陰と感謝しています。洋裁学校から発展、今や中高一貫校として確固たる学校に発展しました。夢のようです。今後益々のご発展を祈念します。

創立100周年の節目に、心よりの感謝を込めて

本名簿は、大多和学園創立100周年記念募金にご協力いただいた皆さまのお名前を掲載したものです。

多くの方々から寄せられたあたたかいご支援とご厚意に、心より御礼申し上げます。

皆さまのご期待に応えられるよう、これからの100年に向けてさらなる歩みを重ねてまいります。

カナツ技建工業 株式会社

梅原 充子 しまね信用金庫 梶谷 隆幸

| | | | |
|--------------------------|--------------------|-------------------|--------------|
| 令和6年度高3卒業生 テクニカルカンパニー | 株式会社 新宮運送 小村奈緒美 | 松江モラロジー事務所 松浦亮 | 白築浩司 實重美紀 |
| 大多和聡宏 | 小田巻七郎 | 舟木唯羽 | 河原純子 |
| 大多和智美 | 小山内仁 | 福井弘子 | 加藤貞子 |
| 倉掛裕喜 | 小川たける | 服部道雄 | 宇野福美 |
| 和光冷温 株式会社 | 浜屋陽 | 佃誉之 | 上山玉喜 |
| ワールドユーティリティ | 吉岡澄子 | 千羽真理子 | 小豆沢保央 |
| 塚谷仁志 | 松江シティFC | 田本電設 | アジア宅建 株式会社 |
| 島根電工 株式会社 | 令和5年度3月高3卒業生 | 田辺厚志 | 赤木寛子 |
| 合銀財団 | 株式会社 | 大五建設有限公司 | 井上耕二 |
| カンコー学生服 株式会社 | キッズコーポレーション | 専務取締役 尾崎文亮 | 吉山八郎 |
| 株式会社 原商 | ライセンスアカデミー | 島根繊維 | 山本理人 |
| 株式会社 マルコー | 手塚 | 實重和美 | 山田(田中) 幸子 |
| 株式会社 庭彩 | 有限会社 | 鷗鷗順 | 山崎茂雄 |
| シンセイ技研 株式会社 | 松江自動車用品商会 | 栗山かおり | 山口俊大 |
| こうぎんリース 株式会社 | 細木恒夫 | 狩野裕昭 | 矢田光一 |
| 梅原かおる | 藤原伴子 | 株式会社 すららネット | 森脇和人(Ris) |
| 井上くるみ | 豊田元英 | 恩田哲 | 森山祐子 |
| ふなこし眼科 | 田辺哲文 | オクダ合金有限会社 | 森山菜緒子 |
| 株式会社 はらぶん | 下町定行 | 沖田智子 | 村上貴史 |
| 陶山秀樹 | サクライゲンジ | 岡田直樹 | ミヤモトマサミチ |
| 令和5年度3月中3卒業生 | 古津恵子 | エンドウイツコ | 三代雄一 |
| 安達亨 | 幸陽建設株式会社 | 岩佐信道 | 三島和貴 |
| 四茂野隆史 | 株式会社 博愛社 | 井上祐一 | 三浦洋嗣 |
| 和田国博 | 勝部希望子 | 伊藤翔 | 松本仁 |
| 吉田写真堂 | 落部由紀子 | 一般社団法人 | 松岡みゆき |
| 有限会社 | 大多和日子 | 松江市西津田共栄会 | 本田匠朗 |
| 重本経営会計事務所 | 医療法人 仁心会津森医院 | 石倉一希 | 星野拓己 |
| 有限会社 タナベワーク | 明石スクールユニフォーム | 飯塚俊之 | 藤見昌延 |
| 代表取締役 田辺哲文 | 株式会社 マックス山陰 | 株式会社 フードテクニカ | 藤原裕貴/大志 |
| 有限会社 カミハギサイクル | 株式会社 アイテック | 八木美重子 | 藤原稔子 |
| 森江哲二 | 中島正一 | 宮本佳那子 | 福間加代子 |
| 松浦三郎 | 田中薫 | 細木秀樹 細木咲良 | 福田富士子 |
| 橋本健太郎 | 島根県モラロジー協議会 | 穂苅満雄 | 原田慎一 |
| 西裕康 | 竹田和弘 | 原田トレーディング | 八壁竜也 |
| 永原秀治 | 演劇部勝部 | ハラダサトル | 長谷川歌子 |
| 田中裕一郎 | 山下美帆 | 濱屋聡 | 伸和機械 株式会社 |
| 高橋良昌 | 山崎彩 | 長谷川貴文 | 野津美紀 |
| 高野顕信 | 矢倉通宏 | 塚田秀典 | 野津風馬 |
| 白枝典子 | 矢頭香織 | 田中牧場 | 野口芳宏 |
| 三岳工業 株式会社 | 百瀬威三郎 | 田中あかね | 西村美津子 |
| 川上大 | 三島勝雄 | 高橋(江角) 栄子 | 西村順昭 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|---------|------|------|-------|--------|------|------|-----|-----|-----|----|------|------|---------|------|----------|-----|-----|-------|----------|-----------|------|------|------|------|-----|------|----------|------|------|-------|-------|------------|------|-------|------|-----------|-------------|------|------|-----|------|------|------|------|------|-----|-------|---------|--------|------|
| 南波利治 | 豊田啓子 | 友田祐爾 | 谷口博則 | 田中美陽 | タナカスポーツ | 田中賢一 | 竹とんぼ | 高木なぎさ | タカキ楽器店 | 高井康子 | 園山雅夫 | 曾田成 | 是津宏 | 関俊章 | 角徹 | 砂流潤一 | 周藤理央 | スギタニミュキ | 塩田直也 | サネシゲマサフミ | 坂本成 | 坂本圭 | 坂田真由美 | サカシタミツアキ | 坂浦(黒田) 晴美 | 坂内貴司 | 小山修治 | 小林正康 | 児玉亮介 | 河野敦 | 甲田良二 | 合資会社一文字家 | 黒田竜朗 | 久保田徹 | 桐村佐千子 | 岸本よし子 | 神田(秋田) 多智子 | 川本喜紀 | 唐島田則寿 | 株式会社 | OMクリエーション | 金築美奈緒・金築佳奈江 | 金築市朗 | 勝部陽子 | 勝部裕 | 勝部弘樹 | 片山博子 | 柏崎啓秀 | 小田拓志 | 奥田善子 | 岡靖俊 | 大多和玲央 | オオタニサエコ | オオタケイコ | 江角千絵 |
|------|------|------|------|------|---------|------|------|-------|--------|------|------|-----|-----|-----|----|------|------|---------|------|----------|-----|-----|-------|----------|-----------|------|------|------|------|-----|------|----------|------|------|-------|-------|------------|------|-------|------|-----------|-------------|------|------|-----|------|------|------|------|------|-----|-------|---------|--------|------|

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------------|-------|------------|------------|------|--------|------|------|------|------|-------|-----|------|-----|-----|-----|-------|-------|--------|------|-------|--------|------|--------|-------|--------|-----|-------|-------|------|------|-----------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|--------|-------|
| 江角隆之 | 宇山昇寿 | 上田虎徹 | 井上勇氣 | 伊藤ふじ江 | 板持淳也 | 石田範子 | 石田皓太 | 池田圭佑 | 吾郷匠海 | 吾郷孝彦 | 秋月広施 | 秋風栄治 | 赤木直行 | 青木和伸 | 株式会社 アスファレス | 竹本亜矢子 | 開星体操競技部後援会 | S47年被服科古希会 | 吉田利江 | ヤマサキミオ | 山崎房男 | 山崎紀代 | 安田晃平 | 森田真之 | 宮崎真理子 | 三島淳 | 松田有司 | 松浦悟 | 松浦功 | 松浦晃 | 益田美智子 | 藤井慎之介 | フクママユコ | 福田桃子 | 福田久美子 | 原正道・恭子 | 原田泰人 | 原一三・優斗 | 浜屋日菜子 | 長谷川亜希子 | 野津透 | 名和川侑沙 | 名和川惇水 | 中藪一美 | 中森優太 | 中務(安田) 泰平 | 内藤亜由美 | 団野倫子 | 多久和幸江 | 宍道正年 | 上代光士郎 | 下山圭司 | 佐藤美恵子 | サエキノブコ | 宰相美代子 |
|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------------|-------|------------|------------|------|--------|------|------|------|------|-------|-----|------|-----|-----|-----|-------|-------|--------|------|-------|--------|------|--------|-------|--------|-----|-------|-------|------|------|-----------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|--------|-------|

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|-------|-----|------|--------|------|---------|------|------|-------|-----|------------|------|-------|------|------|------|--------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|------|------|-------|------|---------|-------|-------|------|-------|------|------|-------|------|------|------|-----|--------|-------|-------|------|------|------------|---------|------|-------|------|------|
| 木幡晋介 | 木幡沙綾 | 河原守正 | 河原範子 | キタニユリ | 川上唯 | 川上大志 | カノウキヨミ | 金築静枝 | カネツキアヤカ | 金築昇平 | 金織寛人 | 加藤美代子 | 片山拳 | 梶原(大屋) さなえ | 景山和子 | 奥原多恵子 | 岡俊太郎 | 太田翔平 | 江角健一 | ウヤマシズカ | 岩瀬和代 | 今岡幸恵 | 伊藤ゆき子 | 石原碧衣 | 石田繁嗣 | 石川めぐみ | 大和里緒 | 森山朱美 | 三保恵海 | 三保七海 | 三保亜津海 | 松岡真志 | マツウラトシコ | 古家実可子 | 広瀬真紀子 | 平井達也 | 野々村鉄平 | 野津基希 | 永島悠希 | 永島めぐみ | 永澤瑠奈 | 田草希夢 | 田草純生 | 棚栄正 | タスマカリン | ゴトウリエ | 古藤恵美子 | 高麗成美 | 小池洋史 | 黒羽根(田邊) 美恵 | 久保河内はるみ | 久家あや | 川畑富美江 | 加藤悦治 | 勝部朋子 |
|------|------|------|------|-------|-----|------|--------|------|---------|------|------|-------|-----|------------|------|-------|------|------|------|--------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|------|------|-------|------|---------|-------|-------|------|-------|------|------|-------|------|------|------|-----|--------|-------|-------|------|------|------------|---------|------|-------|------|------|

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|-------|---------|-------|------|-------|-------|------|-------|------|-------|------|------|-----|----------|------|-----|------|-----|-----|------|-----|------|------|-------|------|------|------|------|---------|------|-------|-------|------|------|------|------|--------|--------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 井尻由美子 | 石原雄介 | 石倉茂美 | 石川節洋 | 安達広子 | 青藤絢子 | 若林貴美子 | ミヤケヒデユキ | 松本百合子 | 本田真一 | 藤田由美子 | 福田八重子 | 福住清美 | 野津みゆき | 野津初枝 | 中村早代美 | 長尾真一 | 田中真理 | 宅和武 | カネオカヒロアキ | 朝倉芳美 | 渡部剛 | 若林留美 | 若林剛 | 若林晃 | 米田澄子 | 吉田豊 | 吉川貴大 | 柳井健一 | 丸山ゆき子 | 松本裕美 | 松本拓馬 | 松本大介 | 松本英二 | フルセケイイチ | 福島由子 | 原田ひとみ | 花井恵梨子 | 野津知恩 | 西村桂子 | 西野安恵 | 永原弘子 | ナガタキヨコ | ナガセヒロミ | 永島多美栄 | 富山和幸 | 種子淳子 | 高松希佳 | 須山和子 | 下田千絵 | 佐次理一 | 榊原稔弘 | 岸シゲ子 | 加納拓馬 | 足立千寿子 |
|-------|------|------|------|------|------|-------|---------|-------|------|-------|-------|------|-------|------|-------|------|------|-----|----------|------|-----|------|-----|-----|------|-----|------|------|-------|------|------|------|------|---------|------|-------|-------|------|------|------|------|--------|--------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|

金融機関にお振込みの方で漢字が不明の方は、カタカナで表記させて頂いております。(順不同・敬称略)

開星
100年の

制服の変遷

The Evolution of School Uniforms.

kaisei 100

女子の制服は、セーラー服と現在のものの中に、別のデザインの期間があります。1979 (昭和54) 年から1994 (平成6) 年までです。紺のスーツ・ベストで、グレーのネクタイでした。なお、男子の制服は、1978 (昭和53) 年に共学化 (当初は一部の科コースのみ) されてから1994 (平成6) 年に中学校を併設し、校名が変わるまで、黒の標準学生服でした。



開星
100年の

校章の変遷

Evolution of the School Emblem.

kaisei 100

1948年～1994年



外側の凹凸のある円状のものは、^{やたのかがみ}「八咫鏡」を表します。
^{やたのかがみ}「八咫鏡」は、日本神話の三種の神器の一つで、日本の皇室の祖先とされる天照大御神の^{あまてらすおおみかみ}「ご神体」です。
 本学園の建学の精神である「モラロジー教育」では、五大聖人 (ソクラテス、キリスト、釈迦、孔子、歴代天皇) に共通する教説・教訓である「最高道徳」を基盤にするので、それを象徴するもの一つとして^{やたのかがみ}「八咫鏡」を背景に置かれました。
 中央の「高」は、高校を表し、それを囲むのは、三つの松葉であり、松は、根をしっかりと張るので安定・繁栄の象徴とされています。これも伝統尊重の「最高道徳」の考えにつながります。そして、所在地の松江も表すことを含められました。
 この校章は、松と鏡から構成されていたので、現在の教育後援会の名称は、発足時 (1980年1月) から校章が現在のもの^{しょうきょうかい}に変わる直後の総会まで (1994年5月) は「松鏡会」でした。

1994年～現在



校章の由来

6年間の中高一貫教育という特色を鮮明に表すため、校章の各部に6に因んだデザインがなされています。
 上の緑色の三角形は6本の線で構成され、中学校1年生から高校3年生までの成長を表しています。
 また、この三角形は、本校の「建学の精神 (※)」にある「品性の向上」も表しています。
 緑色は本校のスクールカラーですが、緑色の三角形は、本校が位置している「緑山」も表現しています。
 真ん中には六角星が置かれています。星は「開星」の「星」の象徴であり、六角は、やはり中高一貫教育を表しています。また、星は「開星」の校名の由来である「社会の発展に役立つ有望な人材 (を育成する)」も表しています。
 星の中の「ペン」は高い知性や向学心を表していると同時に、本校教育の2本柱の1つである「クール・ヘッド」 (冷静な判断力) をも表現しています。
 下には輝く赤い球と6つの羽根が配されています。
 球は本校のもう1つの教育の柱である「ウォーム・ハート」 (思いやりの心) を表現しています。
 羽根は、やはり6か年の一貫教育を表すと同時に、その姿は、生徒の夢 (志) が未来に向かって飛翔している姿を表しています。

制定の時期

「開星高等学校」は1994 (平成6) 年3月に「松江第一高校」から改称されました。これは、同年4月に併設された「開星中学校」と合わせて、県内初の【中高一貫教育】をスタートさせるためです。この期に、「開星中学校」と「開星高等学校」と共通な校章を新しく制定しました。

※「建学の精神」: 品性の向上をはかり、社会の発展に役立つ有望な人材を育成する。

本校が創立された1924年、パリでオリンピックが開かれている。それから100年。2024年には開星は創立100周年を迎え、パリでは第39回夏季オリンピックが開催される。聖火のともしびを受け継ぐように紡いできた、開星の一世紀に渡るクロニクル(年代記)のページを開いてみよう。

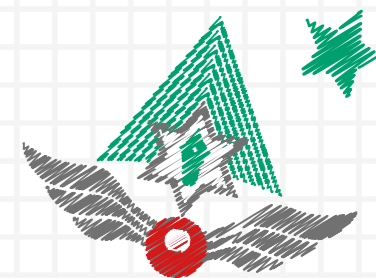


はじめに 大多和音吉「本校創立の動機目的について」より

私は未亡人となった母の苦勞を見るにつけ、女性の経済的な自立が必要と考えました。女性の職業についていろいろ研究しましたが、米国に於いても永続性があり、又、収入の多いのも洋裁でした。洋裁技術の体得により生活上の安定を得れば安心が生じます。その安心が有るところに幸福があるものと私は信じて居ります。現在の実業学校を創立したこともかような動機があり、目的があったからであります。

1924 4月

松江市中原町に、
大多和音吉、大多和タカ夫妻により
「松江ミシン裁縫女学院」創立。



松江ミシン裁縫女学院創立

「ともしび第27号」より

今から50年前、私は2期生として松江ミシン裁縫女学院に入学した。16歳の春だった。

その頃はまだ学校というより塾という感じで、生徒は20名くらいだった。

通学には袴を着、教材は風呂敷に包んで持って行った。同年齢の生徒のほかに、年上の花嫁修業の人もおられた。

先生方も親しくなり、凝った肩をもんでいたたり、お昼休みに近くの草原でれんげ草を摘んだりしたこともあった。

和裁・洋裁の技術を学び、卒業するころにはこれといってできない仕事はないほどであった。

1925

2月 朝日町へ校舎移転。

8月 御手船場町へ校舎新築移転。宿舎附設。

1926

3月 第1回卒業証書授与式。

1927

4月 校長 成相伴之丞就任。

1924

1925~

1938 2月
「松江洋裁女学校」

へ改称

「松江洋裁女学校」と改称し、県知事認可。
校主 大多和音吉
校長 深田愛之助

1951 2月 学校法人「松江家政学園」認可。
家庭科設置。
理事長 大多和音吉、校長 大多和タカ。



1952 4月 普通科増設。

1953 3月 第2校舎を拡張し、校舎を統合する。

1956 11月 校長 大多和タカ 県知事表彰。

1957 5月 理事長 大多和音吉死去。学校葬挙行。
大多和タカ校長 理事長を兼任。

1959 10月 鉄筋コンクリート3階建校舎675m²竣工。



1964 松江家政高等学校 創立40周年

東京
オリンピック
開催

松江家政高等学校
創立40周年

「ともしび第17号」より

私は聖火が松江を通る際の「聖火ランナー」に選ばれた。先生から「君は、県庁から東朝日町までだ」と言われ、「人通りの多い所を走るんだなあ」と思った。

そして毎日、毎日家に帰ってから練習をした。何が何でも走り切らなければと思った。

そして9月24日、たくさんの人々の拍手に包まれて走り出した。手が震えながらもトーチが下の方にならないように気をつけて、道沿いに人の切れ間がない中を走った。この日のことはいつまでも忘れることはないだろう。



1938

1941~ - 1951~

1961~

1964~

1966~

1943 3月 校長 猪股讓 就任。

1944 4月 広島被服廠の学校工場となり、12月中四国55校中第1位の成績により表彰。

1945 2月 財団法人「松江被服専修女学校」となる。
理事長 大多和音吉、校長 藤原彦三。

1946 3月 財団法人「松江高等実践女学校」と改称。
文部大臣認可。
理事長兼校長 大多和タカ就任。

10月 東朝日町に第2校舎設置。

1948 4月 財団法人「松江家政高等学校」と改称し、認可。
専攻科、別科設置。

1961 1月 校長 大多和タカ
文部大臣表彰。

1962 11月 鉄骨2階建体育館
766m²竣工。

1963 4月 科を再編し、
普通科、商業科、
家政科、被服科、
食物科を設置。

1964 3月 鉄筋コンクリート4階建
1,326m²竣工。

4月 副校長 大多和巖就任。

6月 校長 大多和タカ
藍授褒章受章。

1965 11月 校長 大多和タカ
勲五等宝冠章受章。

松江家政高等学校

「ともしび第19号」より

2月8日は言うまでもなく、針供養の日である。

被服科の生徒にとって針は毎日の学校生活と切っても切り離せない。

縫い針を手にしている縫い物をする女性の姿は美しいと思う。針もそれにこたえて、あんなにか細い体でいつもせわしく働いてくれる。

針供養では、使えなくなった折れ針や錆び針に対して感謝の気持ちでもって祈りたい。明日からも針1本1本を大切にしたいと思う。



1966 11月 食物科を調理師養成施設として厚生大臣認可。

1969 5月 西津田町にグラウンド設置9,997m²。

6月 県高校総合体育大会にて女子総合優勝する。

1973

2月 普通科を進学、実務のコースとする。

1975

4月 大多和巖 校長就任。理事長 大多和タカ、名誉校長を兼務。

1977

8月 学校法人「大多和学園」と改称。
9月 「松江第一高等学校」と改称



1978

4月 普通科進学コースに男子入学。

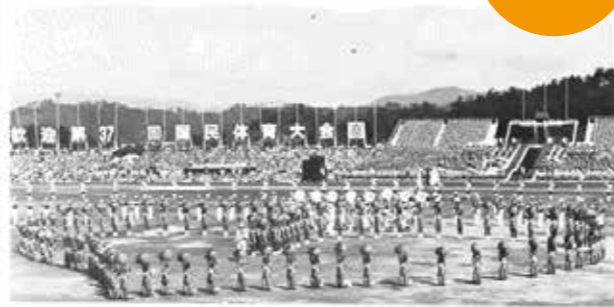
1981

9月 校長 大多和巖 文部大臣表彰。

1973~

1982 松江第一高等学校

くにびき国体開催



くにびき国体開催 「ともしび第35号」より

くにびき国体は私の高校生活の中で、最大の思い出だ。強化選手に選ばれたものの、夏季の水をかぶりながらのランニング、冬季の雪上でのランニングとつらいことが多く、「もうハンドボールなんかやめてやる」と何度も思った。しかしチームのみんなに支えられて乗り越えた結果、国体少年女子ハンドボールは第3位という成績をあげることができた。この経験から得た自信は、これから社会に出る私にとってもプラスになったと思う。

1982

1984~

松江第一高等学校 創立60周年

「ともしび第37号」より

祥明(サンミョン)女子高校との交歓会が始まった。韓国語が分からないので、英語で会話をするのだが、お互いに身ぶり手ぶりを交えて何とか意思の疎通ができた。日本語を教えたり、韓国語を教わったり、他のテーブルでは一緒にビートルズの「イエスタデイ」の合唱が始まったりしていた。過去の歴史から、両国の年配の方の中には、反日、反韓の感情を消せない人もいるが、隣の国同士、もっと交流をしていかなければと思った。

1984 松江第一高等学校 創立60周年

10月 創立60周年記念式典。



1985~

1985 11月 校長 大多和巖 知事表彰。

1987 8月 現校舎へ移転。



1988 10月 新校舎竣工式。

1988 4月 科を再編し、普通科、調理科を設置。全学級男女共学となる。

1989 4月 ABCホール738m²竣工。
11月 理事長 大多和タカ死去。学園葬挙行。



大多和巖校長、理事長を兼任。

12月 故大多和タカ前理事長 従五位勲四等宝冠章受章。

1990~

1990 4月 普通科に特別進学クラスを設置。

1990 10月 雨天練習場竣工。

1991 8月 AET着任。

1993

1993 2月 大志寮竣工。
4月 二学期制導入。

7月 硬式野球部、夏の甲子園初出場。(以後9回出場)



松江第一高等学校

「ともしび第46号」より

我々野球部は、創部6年目にして初めての甲子園出場を果たした。今年のチームは打力のチームだと言われていたが、本当のところはチームワークで勝ち取った甲子園だと思っている。3年生は少人数だったが、その分まとまりがあってここまで来ることができた。

大会4日目第4試合で新潟明訓高校と対戦し、1-3で敗退した。甲子園には出場するだけでなく勝つことを目標として臨んだが、及ばなかった。初勝利は後輩たちに託したい。



1994

開星中学・高等学校 創立70周年 開星中学開設

「ともしび第47号」より

地元の中学には行かず、この開星中学に1期生として入学したが、最初は不安と緊張でいっぱいだった。速い進度の授業、補習、全国模試と大変な面もあるが、充実感もある。

文化祭では高校生の先輩方と一緒に楽しんだり、遠足で行ったアジア大会のサッカー観戦では、ウズベキスタンの選手と交流したりといろいろな思い出ができてきた。

これからも未知のことにチャレンジしていきたい。



2004

中国04総体

開星中学・高等学校 創立80周年

「ともしび第57号」より

今年の文化祭は、中国04総体のために時期を変更し、5月に県民会館大ホールで行われた。

私たちコーラス部と吹奏楽部は「80周年記念天籟祭 だんだんコンサート」として数か月前から2つの部で試行錯誤を繰り返しながら準備を進めてきた。ただ歌ったり演奏をするだけでなく、劇や踊りを取り入れるプログラムを考え、その企画として映画「タイタニック」をドラマ化して上演した。

フィナーレでは、全校生徒、保護者、OBの皆様からたくさんのお手をいただきれない舞台となった。



1994~

1998~

2000~

2004~

2010~

2014~

1994

3月 「開星高等学校」と改称。

4月 「開星高等学校」を開設。
(中高一貫教育スタート)

10月 米国・ベアリバー高校及び
ネバダユニオン高校と姉妹校締結。

1995

4月 田辺福夫校長に就任、
大多和巖前校長 理事長に専任。



1997

4月 大多和聡宏 校長に就任。



1998

4月 校務組織に本部制の導入。

1999

11月 創立75周年記念式典。

2000

4月 授業週五日制の導入。

2003

9月 ドリームアリーナ
1,125m²竣工。

2004

11月 創立80周年記念式典。

2006

7月 大多和巖 学園長に就任。
大多和聡宏校長、
理事長を兼任。

2007

11月 大多和巖学園長死去。

12月 学園葬挙行。

2009

3月 硬式野球部、
春の選抜甲子園初出場。
(以後3回出場)

10月 創立85周年記念式典。

2010

2月 ニュージーランド・
ワイヒカレッジ及び
カティカティカレッジと
姉妹校締結。

2011

3月 調理科を廃止し、
普通科のみとなる。

2012

4月 三学期制に変更。

2013

4月 文部科学省の
スーパーサイエンス
ハイスクール (SSH)
に指定される。

2014

4月 校務組織を3本部制から
6部制変更。

2018

4月 中高一貫アドバンスコース、
中高一貫ベーシックコース
を開設

2015

開星中学・高等学校 創立90周年



開星中学・高等学校
創立70周年 開星中学開設

「ともしび第67号」より

僕たち中学サッカー部は先輩方から学んだ「最後まであきらめない」ということを忘れずに、目標であった中国総体優勝をなしとげることができた。そしてこのメンバーで全国大会に出場でき、本当に嬉しかった。
1年生の頃は、みんなバラバラで怒られてばかりだったが、一人一人が成長し、協力し合うことができ、チームがまとまることができた成果がこの結果につながったと思う。



2015~ 2019~

2019 開星中学・高等学校



JAXA筑波宇宙センターを
見学

「ともしび第71号」より

SSHの研修で、JAXA筑波宇宙センターを見学した。
ここでは人工衛星を開発して宇宙の惑星の探査を行ったり、また宇宙飛行士を養成したりもしている。施設内には宇宙飛行士選抜試験の際に使う閉鎖ボックスもあった。国際宇宙ステーションでは地球上の生物を宇宙空間に持っていき、無重力下での実験観察をしている。
宇宙飛行士の向井千秋さんが宇宙にメダカを持っていき実験をしたが、そのメダカの子孫が飼育されていた。

2020~



2020

4月 普通科を
中高一貫コース以外は
進学探究コースと地元大学コースに改編

2021

4月 水野次郎 校長に就任。



大多和聡宏前校長、理事長に専任。

11月 理事長大多和聡宏 藍綬褒章受章。

2023

2023

4月 小山内仁 校長に就任。



2024 10月10日
創立100周年記念式典



「ともしび」とは

開星100年の歴史を通じて様々な改革がありましたが、学校の建学の精神と共に変わらぬ姿で続いている学園誌が「ともしび」です。

「ともしび」が現在の仕様になったのは1954年1月発行の創立30周年記念号からです。それまでは、「ともしび」と題して学校新聞を発行していました。30周年記念行事では華麗なファッションショー、展示会、バザー、記念運動会が開催されたそうです。記念すべき「ともしび」第1号は現存していませんが、開学以来、次世代の育成を目指す創造的な学びが連綿と続いてきたことを100周年という記念すべき年を迎え、改めて感じずにはられません。

これからも不易と流行を大切にしながら、時代の変化に柔軟に対応しつつ、伝統を守り抜く学園誌「ともしび」として、生徒一人ひとりの声を反映し、多様な学びや挑戦を発信していきます。

創立30周年記念号

第6号 1954 (昭和29年) 発行

本校に残っている最古の「ともしび」は創立30周年の年に発行されました。それ以来100年の歴史の大半をこの学園と共に歩み、その記録を刻んできたと言えます。

創刊以来「ともしび」という名を変えることなく、学校での出来事や多くの方々の思いを連綿と綴ってきたことに感慨を覚えずにはられません。

まさに学園にとって不易の存在となっています。



現存する最古の「ともしび」です



第27号 1975 (昭和50年) 発行 創立50周年▲



第36号 1985 (昭和60年) 発行 創立60周年▲



第40号 1988 (昭和63年) 発行 学校移転時▲



第47号 1995 (平成7年) 発行 中高一貫校スタート▲



第52号 2000 (平成12年) 発行 創立75周年▲



第67号 2015 (平成27年) 発行 創立90周年▲

第6号 1954 (昭和29年) 発行



創立30周年記念号

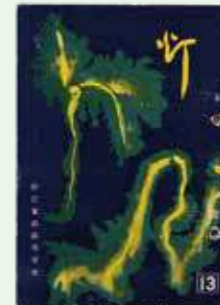
第7号 1955 (昭和30年) 発行



第11号 1959 (昭和34年) 発行



第13号 1961 (昭和36年) 発行



第14号 1962 (昭和37年) 発行



第17号 1965 (昭和40年) 発行



創立40周年記念号

第19号 1967 (昭和42年) 発行



第20号 1968 (昭和43年) 発行



第21号 1969 (昭和44年) 発行



第23号 1971 (昭和46年) 発行



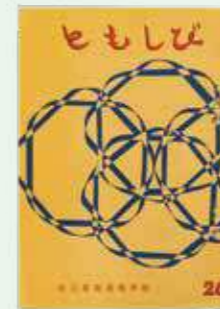
第24号 1972 (昭和47年) 発行



第25号 1973 (昭和48年) 発行



第26号 1974 (昭和49年) 発行



第27号 1975 (昭和50年) 発行



第28号 1976 (昭和51年) 発行



創立50周年記念号

第29号 1977 (昭和52年) 発行



第30号 1978 (昭和53年) 発行



松江第一高等学校へ

第31号 1979 (昭和54年) 発行



第32号 1980 (昭和55年) 発行



創立55周年記念号

第33号 1981 (昭和56年) 発行



第34号

1982 (昭和57年) 発行



第35号

1983 (昭和58年) 発行



第36号

1984 (昭和59年) 発行



第37号

1985 (昭和60年) 発行



創立60周年記念号

第38号

1986 (昭和61年) 発行



第56号

2004 (平成16年) 発行



第57号

2005 (平成17年) 発行



第58号

2006 (平成18年) 発行



第59号

2007 (平成19年) 発行



第60号

2008 (平成20年) 発行



創立80周年記念号

第39号

1987 (昭和62年) 発行



第40号

1988 (昭和63年) 発行



第41号

1989 (平成元年) 発行



第42号

1990 (平成2年) 発行



第43号

1991 (平成3年) 発行



第61号

2009 (平成21年) 発行



第62号

2010 (平成22年) 発行



第63号

2011 (平成23年) 発行



第64号

2012 (平成24年) 発行



第65号

2013 (平成25年) 発行



第44号

1992 (平成4年) 発行



第45号

1993 (平成5年) 発行



第46号

1994 (平成6年) 発行



第47号

1995 (平成7年) 発行



開星中学・高等学校へ

第49号

1996 (平成8年) 発行



第66号

2014 (平成26年) 発行



第67号

2015 (平成27年) 発行



創立90周年記念号

第68号

2016 (平成28年) 発行



第69号

2017 (平成29年) 発行



第70号

2018 (平成30年) 発行



第71号

2019 (令和元年) 発行



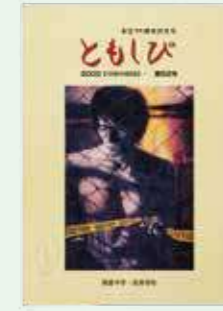
第51号

1999 (平成11年) 発行



第52号

2000 (平成12年) 発行



創立75周年記念号

第53号

2001 (平成13年) 発行



第54号

2002 (平成14年) 発行



第55号

2003 (平成15年) 発行



第72号

2020 (令和2年) 発行



第73号

2021 (令和3年) 発行



第74号

2022 (令和4年) 発行



第75号

2023 (令和5年) 発行



第76号

2024 (令和6年) 発行



第77号

2025 (令和7年) 発行



創立100周年記念号



2024年10月10日(木)に記念式典を本校体育館にて開催をいたしました。
当日の様子を一部ご紹介いたします。

記念式典 次第

- 一、 互礼
 - 一、 開式の辞
 - 一、 天籟の鐘（黙想）
 - 一、 国歌「君が代」斉唱
 - 一、 式辞
 - 一、 メッセージ
 - 一、 来賓祝辞
 - 一、 感謝状贈呈
 - 一、 来賓紹介・祝電祝文披露
 - 一、 校歌斉唱
 - 一、 閉式の辞
 - 一、 互礼
- 副校長 浜屋 陽
 - 副校長 大多和 聡宏
 - 校長 小山内 仁
 - 島根県知事 丸山 達也 様
 - (代理) 総務部次長 清水 寛之 様
 - (代理) 副市長 昭仁 様
 - (代理) 副市長 講武 直樹 様
 - 公益財団法人モラロジー道德教育財団
 - 学校法人廣池学園
 - 理事長 廣池 幹堂 様
 - 「二〇〇年の感謝一〇〇選」発表
 - 代表受賞者 高野 顕信 様
 - 来賓紹介・祝電祝文披露
 - 教頭 岡 瑞恵



来賓祝辞

島根県知事 丸山 達也 様

本日ここに、学校法人大多和学園創立100周年記念式典が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

貴学園は、大正十三年に、松江ミシン裁縫女学院として創立されて以来、時代の変遷とともに発展され100年の長きにわたり、地域の教育の発展に貢献して来られました。

この長い歴史の中、今日（こんにち）まで、学園を支えてこられました歴代の理事長様を始め、多くの関係者のご尽力に対しまして、深く敬意を表する次第であります。

貴学園は、「立志」、「明朗」、「創造」を校訓に掲げ、「品性の向上をはかり、社会の発展に役立つ有望な人材を育成する」ことを教育の目的として取り組んでおられます。

日頃、開星中学校・高等学校の生徒の皆様が勉学やスポーツに励み、文武両道の学校づくりを通して、様々

な分野においてたくさんの成果を積み重ね活躍しておられますことは、非常に喜ばしく頼もしく思うところでございます。

さて、島根県では、「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」をつくる「島根創生計画」を策定し、「島根を愛する人づくり」の取組を行っています。

そして、将来の島根を支える「島根を愛する人づくり」には、関係の皆様のご助力が不可欠であります。

貴学園におかれましても、引き続き、その魅力と特色をますます高められ、島根を愛し次の時代を担う心豊かな人材の育成にさらに努めていただきたいと考えておりますとともに、今後も、この地域における私立学校の中核として、地域の産業や経済、文化の向上に大きく貢献されることを期待しております。

終わりに、学校法人大多和学園の今後益々のご発展と、皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念しまして、祝辞といたします。

松江市長 上定 昭仁 様

大多和学園が創立100周年を迎えられますことを、心よりお慶び申し上げます。

貴学園は、大正13年の開校以来、時代が移り変わる中にも一貫して、各界の第一線で活躍される優秀な人材を輩出してこられました。

その間、平成6年には開星中学校を新設して中高一貫教育をスタートされ、生徒一人ひとりの個性を伸ばす、特色あるカリキュラムを採り入れるなど、次の時代を見据えた教育を実践されております。

さらに、学業面のみならず部活動においても素晴らしい成果を挙げておられ、とりわけ体育系部活動では、各大会で上位の成績を収められ、貴学園の名を全国に轟かせるとともに、市民に夢と感動を与えていただいておりますことに感謝申し上げます。

これもひとえに、歴代の校長先生をはじめ教職員の皆様のご尽力と、保護者、同窓会、地域の皆様の温かいご支援の賜物と確信しております。

本市では、松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」において、「夢を実現できるまち 誇れるまち 松

江」の創造を目指し、日々歩みを進めております。

なかでも「ひとづくり」を柱の一つとして力を注ぐ中で、「品性の向上をはかり、社会の発展に役立つ有望な人材を育成する」を建学精神とされる貴学園が、道徳教育に重きを置き先見性を持って人材育成を図っておられることに、大いに期待を寄せております。

校長先生をはじめ教職員の皆様には、今後も、保護者、同窓会、地域の皆様のご協力のもと、貴学園の教育理念に基づき、地域に根差した学びの機会を提供していただきますようお願い申し上げます。

在校生のみなさんには、創立100周年の節目に在学されていることを誇りとされて、伝統を築いてこられた先輩方から貴学園の精神を受け継ぎ、輝かしい未来のために持てる力を存分に発揮されることを期待しています。

結びに、大多和学園のますますの発展と、関係する皆様のご健勝ご活躍を祈念申し上げて、お祝いの言葉とさせていただきます。

公益財団法人モラロジー道德教育財団 学校法人廣池学園 理事長 廣池 幹堂 様

本日ここに大多和学園が創立100周年をめでたく迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。

貴学の歴史は、「良妻賢母を育てる人間教育の学校をつくりたい」という志を抱いた創立者の大多和 音吉 翁と、タカ夫人との“夫婦二人三脚”によって始まりました。

現理事長の祖父にあたる音吉翁は、青年時代に海軍兵として海外の事情を見聞した体験から、「欧米の女性のように、日本女性にも経済的な自立と高い教養が必要だ」と考え、やがて来るであろう「洋服時代」を見越して、洋裁を学ぶ女学校を構想されました。

しかし、当時の松江はまだまだ「和服全盛」で、ミシンや洋裁の需要はなかなか増えません。さらに世界恐慌のあおりも受け、学校経営は当初から困難をきわめます。

あまりの苦しさ、心の道しるべとなるものを探し求めるようになった音吉翁は、昭和11年、塚谷政蔵氏と運命的に出会い、これが総合人間学「モラロジー」を知るきっかけになりました。

こうして、次の時代を見すえ、先んじて行う「先見・先行教育」と、モラロジーによる「道徳教育」という二つの教育の柱が確立されたようになっております。そうした先人の精神を受け継がれた大多和現理事長、小山内仁校長をはじめとする関係各位の並々ならぬ努力によりまして、100周年という節目を迎えられまし

たことに、深く敬意を表する次第であります。

男女共学となってほどなく、野球部は甲子園の常連として名をはせ、テニス部からは錦織 圭選手が巢立つなど、「立志」「明朗」「創造」の人格教育により、スポーツ界での華々しい活躍のみならず、「社会の発展に役立つ、有望な人材」を育成してこられました。

そして本年1月には、私ども麗澤大学と「高大連携」の協定を締結いただき、優秀な学生をお送りいただいておりますことに、改めて厚く御礼を申し上げます。

現在、少子化をはじめとする大変厳しい環境にもかかわらず、貴学は創立者の精神を具現化し、開星教育の成果を見事に内外に示しておられますことに、同じ私学関係者として心より敬意を表するものです。

教育は「国家百年の大計」であります。

貴学の「先見・先行」の教育、そして真の人間教育が、今ほど必要とされる時はありません。

私どもも同じ私学人として、時代の要請に応えるべく、共に邁進してまいりたいと願ひいたしております。

最後になりますが、大多和学園のさらなるご発展と、ご臨席の皆様のご健勝を心より祈念いたしまして、ひとことお祝いの言葉といたします。

本日は、まことにおめでとうございます。





昼に行われた創立100周年記念式典に続き、同日夜、ホテル一畑にて祝賀会を開催しました。多くのご来賓・関係者の皆様にご出席いただき、本校の部活動生徒や卒業生によるステージも披露され、会場は終始、祝福と歓声に包まれました。

祝賀会 次第

- 一、オープニングアクト
- 一、本校 アカペラ部
- 一、本校 チアリーディング部
- 一、開会
- 一、挨拶
- 一、来賓祝辞
- 一、カナツ技建工業株式会社 代表取締役会長 金津 任紀 様
- 一、鏡開き
- 一、モラロジー道徳教育財団 理事長 廣池 幹堂 様
- 一、島根県議会 議員 福田 正明 様
- 一、松江東ロータリークラブ 会長 山川 博司 様
- 一、本学園 教育後援会 会長 安達 亨 様
- 一、本校 同窓会 会長 野津 直嗣 様
- 一、本校 保護者の会 会長 仙田 朋之 様
- 一、本校 理事長 大多和 聡宏 様
- 一、本校 校長 小山内 仁 様
- 一、乾杯
- 一、本学園 教育後援会 会長 安達 亨 様
- 一、祝宴
- 一、閉会の挨拶
- 一、本校 同窓会 会長 野津 直嗣 様

特別講演会

演題

なぜ青学大は駅伝強豪校へと成長したのか
～ 覚悟と挑戦～

講師

原 晋

青山学院大学 地球社会共生学部 教授
青山学院大学 陸上競技部 監督



オープニングアクト

本校卒業生

演歌歌手 小川たける
スペシャルステージ





このたび、本校創立100周年記念事業として、調理室および調理器具の改修、グラウンドの整備、体育館・ドリームアリーナへの空調設備設置、さらに食堂や生徒ラウンジの改修など、多岐にわたる施設整備を無事に実施することができました。

これもひとえに、卒業生の皆様、保護者の皆様、地域の皆様、そして関係各位の温かいご支援とご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

新たに整備された施設は、日々の教育活動をより充実させるとともに、生徒たちの学びや交流の場として、これからの100年に向けた大きな礎となることでしょう。

今後とも、本校教育へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一番星レストラン VENERA

島根大学との連携により新たなアイデアが取り入れられた、これまでにない“学びと食”が融合した空間です。図書館とのコラボレーションにより、食事だけでなく、くつろぎや学びの場としても活用されています。



生徒ラウンジ

放課後のひとときや休み時間、生徒たちが気軽に集い、楽しく過ごせる場として親しまれています。冷暖房完備で一年中快適に過ごせるほか、ファミリーマートの自販機も設置され、小腹がすいた時にもぴったり。自分の時間をリラックスして過ごせる、もうひとつの“居場所”です。



体育館・ドリームアリーナ

2つの体育館、柔道場などの運動施設に空調を完備しました。



グラウンド整備

グラウンドの凹凸を整地し、安全で使いやすい環境を整えました。



調理室・調理器具の改修

新たにエアコンを設置するとともに、ガスコンロおよびオーブンを新調しました。これにより、調理中の温度環境が改善され、快適さが向上するとともに、安全で効率的な作業が可能となりました。





モラロジー教育をつなぐ

以下の文章は創立100周年記念祝賀会の際、ご参加の皆様にお配りした粗葉に添えたものを改めて加筆修正させていただきました。

今から100年前の1924年、大多和音吉・タカ夫妻が松江市中原町の民家を月60円で借り1台5円の月賦でマシン20台を買って「松江マシン裁縫女学院」を創立しました。生徒は16名、職員は2名。音吉37歳、タカ31歳、若い二人でした。経営はとて厳しく、寝食を共にしていた一人の職員は無給で働いていました。時計も指輪も質屋に入れ、出身地の広島も田畑も全て売り払いました。当時、寮生と家族の住まいも一緒でしたので、タカは空っぽになったタンスを見られないよう、常に鍵をかけていました。こんなこともありました。ある時、結婚したばかりの卒業生がタカを訪ねてきました。帰りにタカが駅まで彼女を見送りに行った際、汽車の窓越しにタカの手を見て「先生、指がさみしくなりましたね。」そう言うと自分の指にはめていた金の指輪を外し、さっとタカの指にはめて「これは結婚指輪ではありません。弟が買ってくれたものです。何も言わずに受け取ってください。」と言って涙をにじませ、自分の額をタカの手甲に押し付けました。感謝の念でいっぱいになるタカでしたが、やがて借金返済のため、その指輪さえも手放すことになるのでした。のちにタカは、嫁いできた幸子に当時を思い返しては、何度も松江大橋から身を投げようと思ったと語っています。

そんな苦しい時代の中、音吉は、塚谷政蔵先生と出会

いました。生徒の職業教育と共に道徳教育としてモラロジーを取り入れようと、1937年、当時の道徳科学研究所へ勉強に出かけます。こうして音吉は「モラ吉」と呼ばれるほど、朝から晩までモラロジーの話を校内外で行い、熱心に取り組むようになります。音吉は学校経営のことは全てタカに任せ、自分は地域のモラロジーの普及に力を注ぎました。

そして、少しずつ学校経営の歯車が動き出し生徒も百人を超え、1938年に島根県の認可を受け、「松江洋裁女学校」と改称。第二次世界大戦が始まると、軍服の需要が高まり、広島被服廠の学校工場となり、中四国地区55校のうち第1位の成績を上げて表彰されるほどになりました。戦後は洋裁がブームとなり生徒数も激増、1948年「松江家政高等学校」と改称し、音吉が理事長、タカが校長となります。戦前に長女が4歳で病死、長男は24歳で戦死した大多和家に、1951年、巖と幸子が夫婦養子として迎えられる。幸子はタカの教え子でもあり、結婚前から教員として働いていました。1952年には山陰で初めて「動く展覧会」と称してファッションショーを開催し大変な評判となります。1957年5月、音吉は70歳で亡くなり、同年8月に聡宏(現理事長)が誕生。幸子は産後の肥立ちが悪く、まだ寝間着姿でいる頃でしたが、タカが言いました。「私は自我が強く、全くの不道徳者だ。そのことを神様が見てお

られて、二人の子どもは取ってしまわれた。音吉も亡くなった。このままでは私の命は勿論、家庭も学校もダメになってしまう。だから私もモラロジーを学びに行く。生まれたばかりの子どもを抱える中、悪いけれど行かせてほしい。」こうしてタカも音吉と同様に、千葉の道徳科学研究所で3カ月の講座を受けたのでした。タカ、63歳の時です。松江に戻ったタカは別人のように変わっていました。口数も少なく、学校の先生方にも声をかけなかったタカが学校でも家でも会話をするようになり、「私が不道徳なことを言ったりしたら、後ろからスカートを引っ張ってくれよ」などとユーモアを交えて幸子に話すようになったのでした。

1974年、創立50周年記念誌にあるタカの文章です。「本校の精神的柱として取り入れられたのが、廣池千九郎先生の創められた道徳科学でございました。いかに知識教養の水準が高く技術は優秀であっても、その人が人倫の大本を弁(わかま)えず、これが実践を怠ったら平和と繁栄も幸福もあり得ないことに思いを致し、一つには社会国家のために、一つは本校の教育達成のために不動のバックボーンとして『最高道徳』を本校教育一切の基盤としたのでございます。」

最後に、2002年に幸子が『ともしび』に書き記した一文を紹介します。「本校でのモラロジー教育は大多和音吉が種をまき、音吉の死後タカが講座受講を経て継承され、それを私たち夫婦が引き継ぎ、次の代が受け継いでくれつつあります。モラロジーに『自ら苦労してこれを人に頒(わか)つ』という格言があります。これは、自分の苦

労や努力の結果を自分だけのものにしないで、すすんで他の人々や社会に分ち、常に全体の幸福をはかるように努めることを説いています。学校教育を実践する上でこの至誠慈悲の精神は不可欠です。創立者の遺徳に感謝をするとともに、その精神の継承を祈って、筆をおかせていただきます。」

1987年に東朝日町から移転したばかりの真新しい西津田の現校舎に初めて足を踏み入れた私は、学園の基礎を築いてくれた大多和タカを影となって支え続けた大多和幸子の苦労を知る由もありませんでした。

今回、創立100周年記念品としての粗葉に添付する文章を作成するに当たり、創立50周年記念誌、毎年発行している『ともしび』等を何度も繰り返し読み、義母が何度となく話していた様々な苦労話を思い返すことになりました。現在の私にはとても想像つかない状況の中、二人はたくましくも、深い愛情で学園のために尽くしてきました。

「先人の知恵と伝統を敬い、社会への貢献に努めます。」これは、毎週木曜日、本校朝礼時に全校生徒と教職員が唱える文章です。今まさに先人の知恵と伝統を敬い、次世代にモラロジー教育を継承し、社会へ貢献していくことが私たちの責務と感じています。次の世代もこの思いを継承してくれることを切に願い、創立100周年記念誌の「あとかき」とさせていただきます。

学校法人大多和学園 評議員 大多和智美